

マチノチカラ

長洲の輝く人にクローズアップ vol 15

生徒の成長が何よりの生きがい
夢は10年間コーチを続けること

テニスを通じて生徒の成長を見守り続ける
腹栄中学校硬式テニス部コーチ

荒尾勝治さん

80歳 平原



PROFILE

あらお かつじ

20代でテニスを始める。平成15年5月、腹栄中学校の硬式テニス部のコーチに72歳で就任。同部を平成16年から21年まで6年間、九州大会出場へ導いた。趣味はテニス。清源寺区在住。80歳。

腹栄中学校硬式テニス部でコーチを務める荒尾さん。きっかけを「同部に常任のコーチがいらないことを聞き、快諾しました」と話した。「20代で始めた特技のテニスを生かして、以前から『何か地域に恩返しができないか』と思っていたんです。これまで、いろんな人にお世話になってきましたからね」。

3年生が引退し、今は1、2年生37人を指導する。「練習を重ねて試合に勝ち、年々たくましく、そして大きく成長していく姿を見るのは、何よりの生きがいです」とほほ笑む。

平成15年に就任。熊本県中学校総合体育大会（中体連）では、翌年から6年間、団体戦で優勝や準優勝を飾り、九州大会出場へ同部を導いた。アベック優勝を果たした年もある。強さの秘訣を聞くと「夏は3時間、冬は2時間、日曜以外は練習を休まず、一生懸命頑張ってくれたから」と教え子をたたえる。

コーチに就いたのは72歳。「就任当時は、生徒とストロークもしていましたが、今は

球出しだけです。ずいぶん歳もとりましたから」と笑顔を見せる。しかしその姿は、年齢を感じさせないほど元気で若々しい。「冗談を交えながら、コミュニケーションを図り、生徒から若さをもらっているんですよ」とにっこり。

男子キャプテンの菊本くんは「指示が具体的で分かりやすい。今後も指導を続けてほしい」と話し、女子キャプテンの伊原めぐみさんは「穏やかで面白い。いつもプレーしやすい環境に整えてくれる」と信頼を寄せている。

「中学生は人として成長する過程で一番大事な時期」と話す荒尾さん。教えているのは、決してテニスの技術だけではない。「生徒には、心と体を鍛えて、強くたくましく育ってほしい。今後、社会に出ていく子どもたちが、前向きに物事を考えられるように指導をしています」と熱い思いを込める。

夢は「10年間コーチを続けること」。年齢を考え「続けられるかな」と案じながらも、10年目の春はもうすぐだ。